

マダラ陸奥湾産卵群資源回復計画に関する漁業者協議会等の開催実績 (平成 22 年 3 月以降)

開催年月日	会 議 名 等	参 加 者	内 容
H22. 7. 1	太平洋北部海域における資源回復計画行政・研究担当者会議	関係県行政・研究、(独)水産総合研究センター、水産庁	マダラ陸奥湾産卵群資源回復計画の現状及び今後の取組みについて
H22. 7. 2	マダラ陸奥湾産卵群資源回復計画に係る情報交換会	青森県行政・研究、(独)水産総合研究センター、水産庁	マダラ陸奥湾産卵群資源回復計画の現状及び今後の取組みについて
H22. 9. 16	むつ湾地区漁業者協議会	関係漁協・県漁連、青森県行政・研究、水産庁	マダラ陸奥湾産卵群資源回復計画の取組状況及び計画内容の一部変更(案)等について
	八戸機船漁業協同組合漁業者協議会	漁協、青森県行政・研究、水産庁	マダラ陸奥湾産卵群資源回復計画の取組状況及び計画内容の一部変更(案)等について

マダラ陸奥湾産卵群資源回復計画の 取組状況及び計画変更について

1. 資源回復計画の取組状況 資料 3-3-①・②

マダラ陸奥湾産卵群資源回復計画（平成 19 年 3 月 29 日公表）は、陸奥湾に回帰してくるマダラ資源の回復を図るため、産卵親魚の確保に重点を置き、H19 年度から小型定置網漁業、底建網漁業及び沖合底びき網漁業において、操業統数の削減、放卵・放精後の親魚及び小型魚の再放流の取組みを実施している。

また、陸奥湾内の漁獲量は 2 年連続で目標値（H14～18 年の平均漁獲量：42 トン）を大幅に上回っている。

2. 計画内容の一部変更 資料 3-4

青森県の「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」（第 6 次）においてマダラの種苗放流数量の目標が変更されたため、これに伴って計画内容の一部を変更する。

3. 今後の進め方

陸奥湾内の漁獲量は 2 年連続で目標値を大幅に上回っているものの、好漁の要因が卓越年級群の発生や海洋環境に支えられているとみられることから、漁獲努力量の削減措置や種苗放流の取組みを継続する。

また、再生産による資源の回復や生態解明に繋がる情報収集を目的として実施してきた放卵・放精後の親魚及び小型魚の再放流について、これまでに得られた結果から再放流効果を検証する。

さらに、漁獲の主体が 4、5 歳魚であることから、H19 年放流群が 4 歳魚となって回帰してくる H23 年度から種苗放流の効果が現れると考えられるため、これを検証するとともに、種苗の安定的な生産や効果的な放流方法に向けた種苗生産技術及び放流技術の向上についても図る必要がある。

以上の結果を踏まえ、目標値である漁獲量とともに資源の回復度合いを図る方法として、底建網や小型定置網の稼働数に基づいた努力量などの指標も判断材料として、計画期間の終了（H23 年度）までに資源回復計画を総括する。

4. 今後の課題・方向性

資源回復計画の総括に合わせて、将来資源の維持安定及び合理的な利用のために必要な定着でき得る取組みの分析・提案を実施するとともに、計画期間終了後の資源管理方法の検討を行う。

マダラ陸奥湾産卵群資源回復計画の取組状況について

1. 資源回復計画に基づく取組状況

(1) 実施期間

H19～23 年度（5 年間）

(2) 漁獲努力量の削減措置

① 操業統数の削減（底建網漁業）

… H19 年度に実施〔216 統から 176 統へ約 2 割削減〕

② 放卵・放精後の親魚及び小型魚の再放流

（小型定置網漁業、底建網漁業、沖合底びき網漁業）

(3) 資源の積極的培養措置

マダラの種苗放流

※(2)の②及び(3)は、漁獲努力量削減実施計画等に基づいて H22 年度以降も継続して実施。

2. 陸奥湾マダラ漁獲量(単位：トン)

年次	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年
漁獲量	44	35	37	70	25	28	44	186	201

※ 青森県調べ

※ 本計画の目標値(42トン:H14～18年の平均漁獲量)

※ H22年は8月までの速報値

3. 放卵・放精後の親魚及び小型魚の再放流実績(脇野沢村漁協)(単位：尾)

年次	H20年	H21年	H22年
再放流尾数	93	184	129
うち標識放流尾数	33	75	87

※ 脇野沢村漁協調べ

※ H22年は10月までの実績

4. 種苗放流実績(単位：千尾)

年次	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年
種苗放流尾数	95	6	107	76	76	33	15	25	52
うち標識放流尾数	67	-	58	20	10	31	14	25	52

※ H18年以前は(独)水産総合研究センター、(社)全国豊かな海づくり推進協会調べ

※ H19年以降は青森県調べ

平成22年度陸奥湾・太平洋北海域マダラ栽培漁業資源回復等対策事業 種苗放流効果調査

資料3-3-②

○標識作業と放流

実施月日：2010/6/23-25

実施場所：むつ市脇野沢の中間育成生簀

資料：青森県産業技術センター水産総合研究所



鰭抜去作業



リボンタグ装着作業



アンカータグ装着作業



リボンタグ装着状況



アンカータグ装着状況



標識装着後の畜養



標識稚魚の放流

○標識放流効果調査

(脇野沢放流群)

放流月日：2010/6/25 表層水温：17.8℃
 放流場所：むつ市脇野沢の中間育成生簀からの直接放流
 放流サイズ：平均全長74mm **放流尾数：42,700尾**
 標識：全数右腹鰭抜去
 (内ピンク色リボンタグ423/42,700尾の二重標識)
 (内黄色アンカータグ100/42,700尾の二重標識)

(佐井放流群)

放流月日：2010/6/23 表層水温：18.6℃、
 水深65m水温：9.1℃
 放流場所：佐井村とむつ市脇野沢との境界付近
 (船で輸送) (放流地点の水深65m)
 放流サイズ：平均全長68mm **放流尾数：9,200尾**
 標識：全数左腹鰭抜去※
 (内赤色リボンタグ540/9,200尾の二重標識)

合計放流尾数51,900尾

※全数右腹鰭抜去の誤り

マダラ陸奥湾産卵群資源回復計画新旧対照表（案）

改 正 （案）	現 行
<p>1～3 [略]</p> <p>4 資源回復のために講じる措置と実施期間 (1) [略] (2) 資源の積極的培養措置 <u>青森県水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画（平成22年3月29日付け公表）</u>に基づく、種苗放流を行う（平成26年度における放流数量の目標〔全長50～80mm:6万尾〕）。</p> <p>(3) [略]</p> <p>5～8 [略]</p>	<p>1～3 [略]</p> <p>4 資源回復のために講じる措置と実施期間 (1) [略] (2) 資源の積極的培養措置 <u>第5次県栽培漁業基本計画</u>に基づく、種苗放流を行う（平成21年度目標〔全長50～80mm:20万尾〕）。 <u>なお、平成22年度以降の種苗放流についても、状況に応じて検討することとする。</u></p> <p>(3) [略]</p> <p>5～8 [略]</p>